# 「市小・中学校の八月踊り伝承活動の取組

## １　学校名

奄美市立市小・中学校

## ２　学年・人数

小学１年生～中学２年生　（計11名）

## ３　日時・場所

（１）　練習の日時・場所

市　集落公民館(一年間の毎月第３金曜日18：30～19：30)

（２）　発表の日時・場所

豊年祭(９月)・秋季大運動会(９月)

## ４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（１）　名称

八月踊り（はちがつおどり）

（２）　由来

八月祭は旧暦八月に新穀を供え先祖を祀り，豊作を祈る祭りのことである。

この考祖祭はアラセツ・シバサシ・ドゥンガに別れており，これらを総称して「三八月（ミハチガツ)」「八月三節」とも言う。

昔，奄美全域で伝染病が広がり，それに加えて天災や地震が起こり，目も当てられない様子だったそうだ。そこで沖縄の王に相談したところ祭りにより祟りを解くようにということから，考祖祭が始まったとされている。つまり，元来は別々であった「自然の神々に豊作を祈る祭り」と「先祖の霊を慰める儀式」がいつの間にか合体してできたのが，この「ミハチガツ」である。

考祖祭は，新米で赤飯を炊き奄美特有のミキを作り，神前に供え五穀豊穣を祈り感謝の気持ちを捧げる。この祭りは８月に３回行われ，第１回は新節（アラセツ）と言って第１の丙の日に，第２回は柴挿（シバサシ）と言って第１回目から９日目の甲の日に行われる。また，第３回目は嫩芽（ドゥンガ）と言って８月の後の甲子の日に行われる。甲子の日はネコ（猫）が子を産む日であるとも言われ，多産を意味する。この「ミハチガツ」において踊られるのが「八月踊り」である。

（３）　構成等

太鼓（チヂン）を持った打ち出しと呼ばれる指揮者（古老の男女）が曲の選定をし，円陣を組んだ男女半々の人々が一斉に曲に合わせて踊り出す。奄美の歌はほとんどがかけ歌で男性が先に歌い，その一小節が終わらないうちに女性が次の一小節を歌うというような流れになっている。

歌かけをしていく内にテンポが速くなっていき，島でいうアラシャゲとなり，ハト（指笛）が鳴り出して熱狂の輪となる。

## ５　保存会や地域との連携の具体

25～26年ほど前は，民謡保存会主催による伝承活動がなされていましたが，現在は集落会の文化伝承部会の伝承活動の一環として実施されている。また高齢者の方々にも協力いただき，歌の指導，踊りの指導をしていただいている。またＰＴＡ会員や教職員も毎回参加して伝承していく体制になっている。

## ６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

校区内の放送を使い，第３金曜日の１週間前から，児童生徒が日替わりで地域の方々に参加を呼びかけている。また，八月踊りの歌詞を壁に広げてはっきり歌いながら踊れるようにしている。区長さんをはじめ，高齢者・地域の方々・保護者・ 教職員・児童・生徒合わせて約40人程が毎月参加している。

## ７　取組の様子

【　公民館での練習の様子　】

【　運動会での発表の様子　】

## ８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

民謡保存会としては組織的には全く機能していない状態で，現在は集落会組織の文化伝承部会の中で，八月踊りの伝承を継続している現状です。

練習に関しては，高齢化に伴う歌い手・踊り手の減少で毎回高齢のメンバーを送り迎えする等して開催している。部会でも青壮年や婦人の方達に参加を呼び掛けて伝承を継続していきたい気持ちでいる。

練習１週間前から，子どもたちが集落放送で参加を呼びかけることは参加率を高めるために効果が大きいと思う。また，その子どもたちや保護者が毎回数多く参加してくれる状況は嬉しい限りである。